

国内マグネシウム 2018 年需要実績／2019 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

分類\年	2013	2014	2015	2016	2017	2018	前年比	2019 予測	前年比予測
ダイカスト	5,800	5,800	5,800	5,300	4,800	5,200	108.3%	5,500	105.8%
鋳物	70	70	70	70	70	130	185.7%	150	115.4%
射出成形	300	300	300	400	480	960	200.0%	1,200	125.0%
展伸材	760	700	750	750	770	800	103.9%	900	112.5%
その他合金	1,030	200	230	200	230	400	173.9%	400	100.0%
構造材小計	7,960	7,070	7,150	6,720	6,350	7,490	118.0%	8,150	108.8%
アルミ合金添加	18,800	21,000	20,800	21,500	22,000	17,100	77.7%	19,000	111.1%
鉄鋼脱硫	3,950	5,500	5,600	5,500	5,500	4,000	72.7%	4,000	100.0%
ノジュラー鋳鉄	2,340	2,725	2,200	2,500	2,600	2,700	103.8%	2,700	100.0%
チタン製錬	60	420	1,000	800	600	700	116.7%	800	114.3%
化学・触媒	1,800	1,800	2,200	2,100	1,800	1,800	100.0%	2,000	111.1%
添加材小計	26,950	31,445	31,800	32,400	32,500	26,300	80.9%	28,500	108.4%
防食その他	620	1,200	1,200	950	990	1,100	111.1%	1,500	136.4%
内需小計	35,530	39,715	40,150	40,070	39,840	34,890	87.6%	38,150	109.3%
輸出	330	575	1,158	600	227	258	113.7%	300	116.3%
総需要	35,860	40,290	41,308	40,670	40,067	35,148	87.7%	38,450	109.4%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

<2018 年の需要実績>

- ①2018 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けの需要が前年比 18.0%増の 7,490 トン、添加材向けの需要が同 19.1%減の 26,300、防食その他向けが同 11.1%増の 1,100 トン、輸出が同 13.7%増の 258 トンとなり、全体では同 12.3%減の 35,148 トンと、5 年振りに 40,000 トンを下回った。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要では、ダイカスト部門が前年比 8.3%増の 5,200 トン、鋳物部門が同 85.7%増の 130 トン、射出成形部門が同 100%増の 960 トン、展伸材部門が同 3.9%増の 800 トン、その他合金が同 73.9%増の 400 トンと、各部門とも前年から増加し合計で 7,490 トンとなり、3 年振りに 7,000 トン台へ回復した。環境規制の強化や EV 化が進む自動車業界における軽量化ニーズの高まりにより、環境負荷の少ない製造工程である射出成形品をはじめとした自動車部品向けの需要が増えてきているものと思われる。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、アルミ合金添加部門が前年比 22.3%減の 17,100 トン、鉄鋼脱硫部門が同 27.3%減の 4,000 トン、ノジュラー鋳鉄部門が同 3.8%増の 2,700 トン、チタン製錬部門が同 16.7%増の 700 トン、化学・触媒部門は同横ばいの 1,800 トンとなり、合計は 26,300 トンとなった。アルミ圧延品製造の海外移転、鉄鋼の高炉休止の影響もあり、5 年振りに 20,000 トン台への減少となった。
- ④防食その他は、数量のうち約 100 トンが防食向けの需要で、これはほぼ横ばいでの推移となり、その他の特殊な用途での需要量が増加し、前年比 11.1%増の 1,100 トンとなった。
- ⑤地金の輸出は財務省貿易統計の数値によるもので、純マグネシウム地金が 22 トン、マグネシウム合金地金が 236 トンとなり、前年から 13.7%増の 258 トンとなった。

<2019 年の需要予測>

- ①構造材向けの需要は、自動車分野への需要増加が続くものと見られることから、各分野とも需要量が増加し、ダイカスト 5,500 トン、鋳物 150 トン、射出成形 1,200 トン、展伸材 900 トン、その他合金 400 トン、合計で前年比 8.8%増の 8,150 トンと予測した。
- ②添加材向けの需要は、アルミ合金添加分野は回復していくものと見られ 19,000 トン、チタン製錬分野、化学・触媒分野は若干の増加でそれぞれ 800 トン、2,000 トンに、鉄鋼脱硫分野とノジュラー鋳鉄部門は横ばいの推移でそれぞれ 4,000 トン、2,700 トンになるものと予測した。添加材向け全体では 28,500 トン、前年比 8.4%増と予測した。
- ③防食その他は、その他の特殊な用途での需要量増加により、1,500 トンに増加、輸出はほぼ横ばいの 300 トンで推移するものと予測した。
- ④2019 年の国内マグネシウム総需要量は 38,450 トン、前年比 9.4%増になるものと予測した。